



官  
刺  
孝義錄

卷卅一

伯耆 出雲  
石見 隱岐

9  
1596  
31





1596  
31



孝義録卷之三十一

伯耆國

奇特者

松平相模守領分  
汗入那福尾村

孝行者

同領  
日野郡下黒坂村

孝行者

同領  
久米郡大島村

孝行者

同領  
會見郡茶子茶町

孝行者

同領  
會見郡茶子内町

孝行者

同領  
會見郡茶子尾高町

庄

百姓

百姓

町人借家位

町人大系在

町人持在馬場

表三所

早九歲

明和六年  
癸亥

定八

早九歲

寬政元年  
癸亥

源次郎

早八歲

寬政元年  
癸亥

源助

早八歲

寬政四年  
癸亥

兵右衛門

早三歲

寬政四年  
癸亥

人

早歲

寬政四年  
癸亥

孝義録卷之三十一



孝行者

同領  
會見那米子統町

町入黒坂孫去徳娘

寛政四年

孝行者

同領  
會見那河島村

無田百姓

寛政四年

孝行者

同領  
會見那井上村

百姓

寛政四年

孝行者

同領  
同所

無田百姓

同時

孝行者

同領  
會見那市場村

無田百姓

寛政四年

孝行者

同領  
會見那清木村

百姓

寛政四年

孝行者

同領  
同所

公在妻

同時

孝行者

同領  
會見那栗崎村

百姓

寛政四年

○孝行者

同領  
久米那金吉餅茶町

町入福積茶

寛政四年

孝行者

同領  
河村那中奥寺村

百姓

寛政四年

孝行者

同領  
汗入那東高田村

無田百姓

寛政四年

孝行者

同領  
汗入那手村

無田百姓

寛政四年

孝行者

同領  
日野那小原村

百姓

寛政四年

孝行者

同領  
日野那岩倉村

百姓

寛政四年

孝行者

同領  
日野那湯谷村

百姓

寛政四年

○孝行者

同領  
久米那服那村

無田百姓

寛政四年



孝行者

同領  
久米郡國分寺村

無田百姓

差右馬

寛政四年  
癸亥

孝行者

同領  
久米郡福富村

無田百姓

平七

寛政四年  
癸亥

孝行者

同領  
八幡郡別所村

百姓与一云清井

佐平

寛政四年  
癸亥

孝行者

同領  
八幡郡由良村

百姓

志右馬

寛政四年  
癸亥

孝行者差七

差七ハ久米郡念吾餅屋町のもれり家名と福積屋  
 といふ六歳の時より父多左衛門申向とてうせしめあも  
 心事ありしことと家貧にこに事とらげりて子て飢渴に  
 せりりしかハ母もすまじくやむひそんいつらとも  
 ろく出初ぬ差七初て父を慕ひてててまぐり  
 六の年ありて屋敷又ハ町をめぐり食とらひて  
 父とてあふ病の申もたに酒飲ん事をこひけ  
 せハ差七ハ酒をらる家に一椀の酒をたひ又ハお錢と  
 銭のあしひと出しておひもとめりの潮人とる



に及びて人よ雇われ又ハ市中の魚持して世を  
 さらしれり持つてくる地也も貸に入置りて  
 ともして命のうちにありて事もあらん  
 父のついにふりていれどもいれどもいれども  
 かくに力をあてて議と考文を始りて  
 あらむいれども事とせしる報主もいれども  
 孝七の孝ふるにめぐる報主も贖りせ書書と  
 も送せりていれども父にすするに奉仕の形ひ  
 ひぬらく済むりて終ひる日ことこの食をす  
 びるものも終暖のむらよるをつけりて日く此業

に暇をくたまたまするものも食財のどくろ事ありて父の  
 いうりてそまへりて膳をあげらるる事ありて  
 もふにとめはるりて父をさへあはれりていれども孝  
 義とていれども八年前に父のらせりて時も福ん  
 次は法事といらるるま奉れ七回忌にも親族を  
 あつりてものものあつりて物をさへいれども孝七の  
 ついに酒を好りて酔ひて父を慕ひるを  
 孝七のあつりていれども寛政四年四月に  
 寝たるとして報をいれども

孝行者法云



清玄清八久米郡福本村の百姓勤左衛門の子あり七歳の  
 時目形版取村作右衛門よりよきの小菖り申して子と  
 申しし作右衛門はもとる田畑も山林も多し夫婦とも  
 に七十歳にあたり多病にて世はとこるよきもあ  
 りしとて清玄清らやあひうつとて積るも乃より  
 めつろくさあつくにうろはんとそく日備着持にや  
 とりてして父母を慕ひ先の年飢饉の時も葛蕨  
 ると堪たりして食料とせりしは毎れ多し腫れや  
 と多しはさるものくりせしやあやとて後ハあくと  
 めりありさくく小前とてひま錢をまひそ乃

弟ハ平馬れく少くともものをくひ或は湯水とたりを  
 のとて飢をこすけむる父母に食料にんを津を  
 惣業子くも味ふととを求め水煎のあうけぬ事  
 るく出るよりし物らよ告げその物ら財をこり  
 たりしハ父母も涙おろしてあうこり清玄清は  
 孫よ人よりこりてむるものいく種るこ命られ  
 いろいろりハ孝義とさあけしとて多ししは  
 のカとつとほとるけこりこるん実父勤左衛門も七  
 十歳にありあつくつこりも福とらせ近頃乃凶年に  
 賞物乃末多く宅地をも賣志らるせりり程も



物いぬれこのれるを法云傍り力りく奉くに利長  
 を納め日く此費をもつたけく時々の服初村より  
 多のゆり養父にふひて同一家もすませんを  
 しか今に然うつりもやらは月那と福田村越左衛門と  
 いへるもの妻の養母の妹ありくありくか越左衛門に子  
 ありく是れ知を信りく養くくううくやうくに老  
 衰へくるやうくと法云傍りれをもこすけ作り勤も  
 や一の事ゆりも然りくふとつけくつ子に越左  
 衛門夫婦乃ものと叔父と母とありかひ二人とも感  
 しくその寛政四年四月願より養ひてく報をあらふ

出雲國

孝行者

松平出羽守領分  
出雲郡西代村

百姓

市之郎

千歳

貞享四年  
慶長

孝行者

同領  
意宇郡東岩坂村

百姓

とよ

歳不知

元禄二年  
慶長

孝行者

同領  
神門郡口田俣村

百姓

市右衛門

五十四歳

元禄四年  
慶長

孝行者

同領  
同所

百姓

谷不知

歳不知

同時  
慶長

奇特者

同領  
意宇郡日吉村

無田百姓

孫玄清

五十六歳

宝永三年  
慶長

孝行者

同領  
出雲郡宇奈神庭村

無田百姓

市右衛門

年八歳

享保八年  
慶長

孝行者

同領  
同所

無田百姓

志

年一歳

同時  
慶長



○孝行者

同領 杖康形成相寺村

奇特者

同領 神門形芦渡村保知石谷

孝行者

同領 神門形下橋波村

孝行者

同領 同領

奇特者

同領 松江城下荒崎村

孝行者

同領 松江城下白瀉寺町

孝行者

同領 松江城下末次魚町

○孝行者

同領 崎根形西門津村

百姓七郎右衛門

百姓五人組

無田百姓

任三浦妻

百姓

町人備前住任三浦後家

町人備前住任三浦後家

無田百姓

任也

四十二歲

寬保二年

孫三郎

四十六歲

寬保二年

任三浦

五十五歲

延享元年

世

四十五歲

同時

次左衛門

五十一歲

延享元年

志

五十九歲

延享二年

阿

五十六歲

寬延二年

格

七十歲

寬延二年

孝行者

同領 松江城下末次魚町

孝行者

同領 神門形和井官村

奇特者

同領 神門形大津村

孝行者

同領 松江城下末次元材木町

孝行者

同領 神門形塩治村

孝行者

同領 飯石形之刀屋町

孝行者

同領 松江城下末次新材木町

孝行者

同領 意守形八幡村

無田百姓

百姓

百姓

町人備前住塗師

無田百姓傳吉娘

無田百姓

町人備前住

無田百姓

惣吉

五十二歲

寶曆二年

太四郎

六十一歲

寶曆四年

七右衛門

六十五歲

寶曆四年

利三郎

六十一歲

寶曆十二年

八

四十一歲

明和元年

半三郎

四十九歲

明和四年

孫四郎

五十七歲

明和七年

十

五十三歲

安永二年



孝行者 同領 大系乃南加茂村

孝行者 同領 神門乃後橋村

孝行者 同領 神門乃馬木村

孝行者 同領 大系乃加茂中村

奇特者 同領 大系乃本次町

孝行者 同領 楢縫乃口宇賀村

孝行者 同領 出雲乃東林本村

孝行者 同領 橋根乃本庄町

百姓

百姓

無田百姓 住吉清娘

百姓

無田百姓

無田百姓

禪門蓮心娘

無田百姓

半右衛門 安永二年 獲賞

助四郎 安永三年 獲賞

乙女 安永四年 獲賞

大右衛門 安永八年 獲賞

若右衛門 天明三年 獲賞

新八 天明四年 獲賞

乙女 天明四年 獲賞

忠玄法師 天明五年 獲賞

百姓

無田百姓 庄之所娘

同

無田百姓

百姓

無田百姓

無田百姓 住吉平娘

百姓

文助 天明五年 獲賞

乙女 天明五年 獲賞

乙女 同時 獲賞

十九郎 天明五年 獲賞

橘次 天明五年 獲賞

權四郎 天明五年 獲賞

乙女 天明五年 獲賞

傳次 天明五年 獲賞



孝行者 同領 德儀那安來町

孝行者 同領 德儀那安來町

孝行者 同領 德儀那安來町

孝行者 同領 德儀那安來町

孝行者 同領 大系那木次村

孝行者 同領 神門那今市町

孝行者 同領 神門那今市村

孝行者 同領 神門那今市村

孝行者 同領 神門那今市町

孝行者 同領 秋麻那江角浦

孝行者 同領 仁多那湯野系村

孝行者 同領 松江城下白海八軒至町

孝行者 同領 飯石那教門内村

孝持者 同領 大系那加茂中村

孝行者 同領 松江城下和多見町

孝行者 同領 飯石那本郷上村

無田百姓舟乘

無田百姓

無田百姓

無田百姓

無田百姓才去湯村

醫者

無田百姓

無田百姓

久右衛門 四十歲 天明五年 獲賞

若六 四十二歲 天明五年 獲賞

志熟次 二十五歲 天明五年 獲賞

沐右衛門 五十歲 天明五年 獲賞

拾松 二十五歲 天明五年 獲賞

成相之隆 五十九歲 天明五年 獲賞

系大 二十二歲 天明五年 獲賞

若右衛門 四十二歲 天明五年 獲賞

景太 二十七歲 天明五年 獲賞

和若 二十八歲 天明五年 獲賞

長松 三十歲 天明五年 獲賞

傳玄浦 四十六歲 天明七年 獲賞

市 四十歲 天明八年 獲賞

末村 三十五歲 寬政元年 獲賞

市原若山 四十歲 寬政二年 獲賞



孝行者

同領 德儀那根谷村

孝行者

同領 松江城下末次茶子町

孝行者

同領 松江城下末次北塚町

孝行者

同領 松江城下末次石橋町

孝行者

同領 松江城下末次中原町

孝行者

同領 松江城下末次茶町

孝行者

同領 松江城下白海寺町

孝行者

同領 松江城下白海監町

無田百姓古去清娘

六十歳 寛政二年 獲賞

町人借屋住儀多清娘

六十歳 寛政三年 獲賞

町人借屋住

三十二歳 寛政三年 獲賞

町人借屋住燈治

四十六歳 寛政三年 獲賞

町人借屋住

三十一歳 寛政三年 獲賞

町人借屋住

六十四歳 寛政三年 獲賞

町人借屋住新子清倅妻之節妻

四十五歳 寛政三年 獲賞

町人借屋住越七倅

四十四歳 寛政三年 獲賞

孝行者

同領 指縫那五百田村

○孝行者

同領 出雲那西代村

奇特者

同領 大系那東阿用村

孝行者

同領 神門那塩治村

孝行者

同領 神門那大洋村

孝行者

同領 神門那上ノ郷村

孝行者

同領 同前

孝行者

同領 神門那多岐村

百姓

種平 五十歳 寛政三年 獲賞

無田百姓古十妹

大女 十八歳 寛政三年 獲賞

百姓

弥三郎 七十歳 寛政三年 獲賞

無田百姓次助妻

いり 五十二歳 寛政三年 獲賞

百姓

茂彦 五十歳 寛政三年 獲賞

百姓

長四郎 五十歳 寛政三年 獲賞

長四郎

若九郎 五十歳 同時 獲賞

無田百姓新八娘

里三子 二十九歳 寛政三年 獲賞



奇特者

同領 飯石郡法師田村

百姓

与左の

廿二歳

寛政三年

奇特者

同領 飯石郡上村

大工

友之原

二十五歳

寛政三年

孝行者

松平上野及領分 秋保郡西比田村

八幡宮神主後代

吉川千座

千座妻

三十八歳

寛政元年

孝行者

同領 同所

みさ

二十歳

同時

寛政

○孝行者

孝行者

飯石郡

百姓

孝行者

寛政

孝行者はや

是やハ秋麻郡成相吉村より高七石一斗もてらる百姓七郎  
 大島ツ、娘をり寛保二年二月晦日母棄れをとり居  
 ころさけ小声乃らこころえく、六老中出くころまふり  
 娘の出来りて母にらひつゝいあけもつや辱るゝと春  
 にのりころを娘くけりくた右の腕にくいりり  
 子ありナリ、娘の二つ乳母とらりてお母せしと七  
 郎右志、娘の咽に棒つゝい進て殺くころと女のり  
 てしり命をいとしと母をくけし事つ子に孝ん  
 あつゝ取るりころく領主より褒美くそ業をあ







せり志きより後の朝夕の食をそまへつにありし  
 ことに禮をのつくともくひその處にありてと  
 ひよるく繪にじゆい外に出せし首にゆけくま  
 らくも身をとまは事ありそのうち事とそと  
 出雲の由にくりいよく孝をそまへしか父八十  
 の年又も江戸よりくし夜よとれまにいとを  
 もまらぬ父の命たつて志とくもそまへくこれ  
 と仕ふるものゝまらひるれはひとつて出ましに  
 遠江の國日坂の驛より父たうありぬか使とそ  
 てなぐく江戸より赤坂にゆく人のくしと刻

むありとれし父の像と刻の中へしこれも價を  
 うけぬ又酒者と誇りけりけささるる像にい  
 ぬとら如くつて人まつりて朝夕乃膳をそまへ物いひ  
 洋礼しき暑とけさひ風をかつりてぬるよ梅白  
 につけしとさるる生るにつらるるこころありしと  
 人ら孝の権助とよひるるせり事とそまへ  
 にくり父のこめくりの忌日に佛事をいふとこれ  
 よりして魚肉を断らるる子と針治をも  
 るせしこころありて醫者をしるる事ありと  
 るものやとりにゆと中めやよの藤治く食も乃



軍中へくふつけしとらん寛延二年領主より檀助  
より月と終るゆへく幸ことに茶とあこしく賞せし  
とそ

孝行者ため

ため八出雲郡西代村乃賀氏若十が妹あり八九年  
前より母の目とやしくつるよ志むあまじいやく  
に孝者にせありしとためいさけさくして母を養  
婦へさゆすあく目とに相ふひきをせいくとん  
て母にのこしめくその縁せらるるうらひさも  
うけし飢渴を志のへるゆ志とくありさくも

あられくあこしくまにくしと志せらる  
うのかくして世のいさくもあうくうらんに母を養  
女の中にうとまへわけて郡中とあめりるあせし  
もやとらりあんも一誓女乃中にあこつる事終ひ  
ぬえはうとにいさうらんと進さものとせむいさ  
くものせむいさうして郡中とあめらんもく  
へ一吾身はいさよ誓とくおらも母の力を骨せら  
らん事と終るやうく終そのまにありしうら  
さもものもいさうらんとあめらんもく  
いさくあこしくあこしくあこしくあこしくあこしく



る事、さういふより、寛政二年四月、領主より褒  
美として、これより、年々、終るより、米を、あつて、賞せり

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

石見國

奇特者 出代官支配所  
邑智野柏岡村

奇特者 同支配所  
同所

○孝行者 同支配所  
安濃郡東用田村

孝行者 松平用清古領分  
那賀郡宇野村

孝行者 同領  
同所

孝行者 同領  
那賀郡朽木村

孝行者 同領  
那賀郡本明村

孝義録卷三十一

百姓 波多野清之助 享保十九年  
行褒賞

水呑 波多野清之助 元和元年  
行褒賞

百姓 定右衛門 寛政二年  
行褒賞

百姓 八郎左衛門 明和七年  
行褒賞

百姓 友次郎 同時  
行褒賞

百姓 任右衛門 安永八年  
行褒賞

無田百姓 仁左衛門 天明五年  
行褒賞

廿五



孝行者 同領 邑智野井系村

孝行者 同領 郡賀野大界

孝行者 同領 同所

孝行者 同領 同所

孝行者 同領 同所

家内睦者 同領 邑智野高見村

家内睦者 同領 同所

兄弟睦者 同領 郡賀野黒津村

百姓新七人市所備

本國百姓八牌

三十二歳 寛政元年

文三歳 寛政元年

知三助 同時

政三歳 同時

芳松 同時

小右衛門 寛政元年

十八人 同時

徳三助 寛政二年

兄弟睦者 同領 同所

兄弟睦者 同領 同所

孝行者 同領 美濃郡郡系村

孝行者 同領 同所

孝行者 同領 美濃郡仙道村

農業出稼 同領 美濃郡上本郷村

農業出稼 同領 同所

○孝行者 同領 同所

徳三助

六三助 同時

砂七 同時

三左衛門 寛政二年

一三 同時

徳次郎 寛政二年

三三 寛政二年

三三 同時

友三 同時

百姓新七人市所備

本國百姓八牌

三十二歳 寛政元年

文三歳 寛政元年

知三助 同時

政三歳 同時

芳松 同時

小右衛門 寛政元年

十八人 同時

徳三助 寛政二年



孝行者

同領 郡賀那七條村

孝行者

同領 郡賀那淺井村

孝行者

同領 郡賀那上里門村

孝行者

同領 家來

孝行者

同領 濱田城下檜島町

奇特者

同領 郡賀那宇野村

孝行者

同領 郡賀那淡田浦

孝行者

同領 邑賀那布木村

百姓甚多其娘

十六

志内人

二十八歲 寬政二年

七

四十歲 寬政二年

与五郎

十九歲 寬政二年

角助

二十一歲 寬政二年

次郎

六十九歲 寬政二年

幾助

三十七歲 寬政二年

然次郎

二十二歲 寬政二年

七左衛門

卒歲 寬政二年

孝行者

同領 美濃郡内宮村

忠義者

同領 濱田城下惠美須町

孝行者

同領 鹿井隱岐古領分 津和野城下被園町

孝行者

同領 美濃郡下種村

孝行者

同領 同所

孝行者

同領 鹿足那森村

孝行者

同領 鹿足那六日市村町

孝行者

同領 郡賀那長末村

無田百姓甚多娘

町人加久屋繁吉郎

町人作次郎後家

百姓

百姓六助娘

町人十右衛門

百姓志左馬下作人

源助

五十三歲 寬政三年

平

四十歲 安永八年

伊三郎

二十七歲 天明三年

平

二十歲 同時

三

二十九歲 寬政三年

金右衛門

二十五歲 寬政三年

志

三十三歲 寬政三年

志

三十三歲 慶長



孝行者

同領 那賀郡長見村

孝行者

同領 那賀郡久佐村

○孝行者

同領 那賀郡九条村

孝行者

同領 那賀郡九条村

孝行者

同領 那賀郡北田村

孝行者

同領 那賀郡米系村

奇特者

同領 那賀郡木田村

奇特者

同領 那賀郡日高村

無田百姓

仙 寛政三年

百姓志士

四十八歳

与 寛政三年

法皇系

二十歳

与 寛政三年

百姓

五十歳

与 寛政三年

百姓平三郎

四十二歳

与 寛政三年

百姓之次郎下作人長尾

二十九歳

与 寛政三年

百姓

二十六歳

与 寛政三年

灰石新書馬下作人長尾

五十歳

与 寛政三年

百姓

五十三歳

与 寛政三年

奇特者

同領 津和野城下森町

町人

与 寛政三年

早六歳



孝初者定右衛門

定右衛門ハ安濃郡東用田村子借家としてよめる百姓  
 あり父ハ醫者と業とせし二十年前にうせ母ハ  
 年々八十九にふせり甚月妻とも具して男子  
 一人女子一人ありしか年とけしるは年とけ娘  
 二人ハ外に嫁りしかのこれる一人ハあこいといはる  
 その月とありせし人ありおれりて田畑も  
 なく同村より蓮花寺北田に百姓友を邸といへる  
 といふ畑と小作し農事のためは日雇にやと  
 是又ハ兼履草鞋をつくりやうく十二と長もつ



日知也ハ市に由りて一足と一襪をらよ人母れ好  
 るものるれハ襪よ酒をもとめのこる襪を来  
 二合もりのにくく母れよつこ料どくのこり乃  
 飯よくくそくつくくのままぬとみれよへこのも  
 せかおにふれてハ糧をこらあつくありく事  
 もあつありささのまごになるく甚ハ蚊帳さへな  
 けまハ母れこつりよありて兼履草鞋をつくりな  
 くら蚊を造ハ小袂をこつて母のんとさくこ免  
 そのいあつとこれと夜をおりて蚊をこく寺社  
 にあつておえにゆら時ハる二三里さくつこいへも

ちつこ母を背おひ妻はうらうら抱さくへこの若  
 さい時より親の心を慰めん事のとさひあつと  
 いへもゆらやあつあつ縁してその昔をもあつせは  
 せんくくあつくあつひうらうらひてあ乃月やうらむ  
 つまつく妻も又支にるらひて支のあつあつ始の  
 たつとさいもまれと命事をすめ女抱をつくく取  
 のまのあつれうらていさか乃あつるといへも子よ  
 かのいへとくも母にのまもあつめ今の寛政二年之月  
 江代友義益々助ありここえとくハ江藤英の張若  
 干くあつれ也



孝行者友義

美濃郡下平郷村に十作と云ふ名ありもて其の百  
 姓あり赤義友義とて二人の子をもてり十年あり  
 母の病の重とありしうにありひもあつて田  
 畑を賣つて一貫言のものとあれるをあげて是を病  
 への力ありてやうくと一升もりの言もてる百姓に  
 へせりて十年ほどこのうに十作もあつてもいふ人  
 妻と赤義ともいふ人の田を譲りつりて一日を送  
 るに赤義の友義はあつていふに母と見  
 の出せしつりあつてとつても父の側をたつてと

看病して近き村の神事又ハ寺に借書ふと譲り  
 して事ありとて母のゆりてとけされ外に出る  
 事あり伯父新去清の儀もすうとあつてにゆく  
 るありといへともとてやうゆりその母と見え  
 農事にかとてつて友義をいひつりてとて寛政  
 二年十一月領主より褒美とつて友義に書をたつ  
 へ又母と見えもあつてとるん時よ友義年十五  
 歳と見え

孝行者赤義

赤義は那賀郡九条村の赤屋赤去清の十作人あり



父ハ桶結めくありしハ其意ハ初ハ時よりせり  
 母のこありき其意ハ七葉の比より同村乃屋を仲  
 右兼つりしに其意ハ母とともれ若くハナニ葉乃  
 時仲右兼つりハ帳をたひゆりて母と共らんとりし時  
 初くて飢も及ひぬへし今其意ハくともあり  
 若くといへば母ハ胡とく起出く日備よやとりて其  
 に入るもの難と推せしよりつるもともありとら  
 よ志の心と服とらりて母と共らんとりし時  
 せといへばとらせしハ母の心とにゆり日こらふと  
 らりしとらにこりつる若くハナニ葉乃もなり

ハハ桶ゆめくとも見え仲右兼つる媒めく今ハ其意  
 下作人よりぬニ二三の比母も村の役人もともよ  
 妻とむりしとらよ母乃んに叶りぬものとむりし  
 其ハ不孝もよりぬへく又離縁とせハ母ハ若もこ  
 てつへしとら獨りありしハやうく老もこ  
 くとら若もんよあせぬハ母の志もくともむりし  
 志とらひて妻とめらりしとらその妻もあつて孝ハ母  
 たりし寛政三年四月領主より獲りしとら其意  
 に務とらせ母の命もあらうとらハ其意ハくとも  
 とあつてつら



Handwritten text in vertical columns, likely a transcription of a document or a list of names and titles.

隱岐國

百姓

不奇特者

松平出羽守用新所  
周在殿中相

奇特者

田中初所  
田新

半去婿

平去婿後承

平三歲

寬政九年  
御褒賞



平德政

四

平德政

四

孝義錄卷之二十一

平德政

四

平德政

四



